

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和3年12月7日（火）

### 2 確認箇所

ブルータンクエリアB

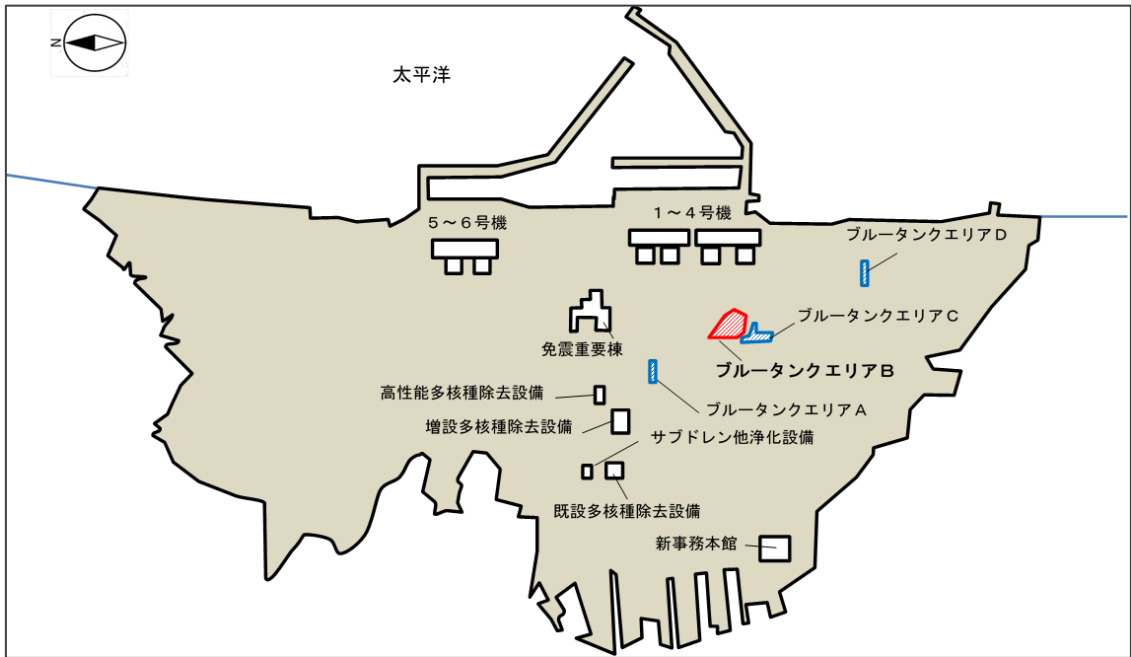
### 3 確認項目

構内に保管されているブルータンクの保管状況

### 4 確認結果の概要

地下水等の流入により増加する建屋内滞留水を処理・保管するため、福島第一原子力発電所事故当初は短期間で設置可能な横置き型ブルータンク（以下「ブルータンク」という。）やフランジ型タンクを用いていたが、漏えいリスクの低減及び土地の有効活用のため、溶接型タンクへのリプレースが進められている。前回（11月9日）はリプレース作業により撤去されたブルータンクが保管されている4エリアのうちの1つであるブルータンクエリアAの状況を確認したが、今回（12月7日）はブルータンクエリアBの状況を確認した。（図1）

- ・ブルータンクエリアBは1～4号機建屋西側の高台上に設置されており、134基のブルータンクが2段積み状態で保管されていた。なお、地震対策として下段のタンクについては脚部が台座にボルトで締結されるとともに、上段のタンクは下段のタンクとベルトにより固縛されていた。（図1，写真1）
- ・当該エリアには関係者以外が立ち入らないように、単管パイプにより区画されるとともに立入禁止の標示が設置されていた。（写真2）
- ・今回確認した範囲でブルータンクの保管状況やタンク下部のフランジ部に異常は見受けられなかった。なお、東京電力によると、保管されているブルータンクについてはタンク内に残水が無いことを確認した後に、下部の取り出し部をフランジで閉止しており、年に1度、巡視による状態の確認等を実施しているとのことである。（写真3）



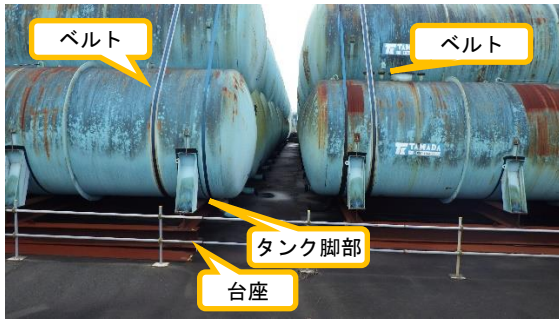
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
ブルータンクエリアBの外観  
(北東側から撮影)



(写真1-2)  
ボルトによる台座への固定状況



(写真1-3)  
タンク脚部と台座部分の状況  
並びにベルトによる固縛の一例



(写真2-1)  
単管パイプによる当該エリアの区画  
(南側入口)



(写真2-2)  
立入禁止の標示  
(北東側)



(写真3)  
閉止フランジ部の状況  
(閉止フランジを取り付けた後に  
黒色の防水塗装を施している。)

- 5 プラント関連パラメータ等確認  
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。